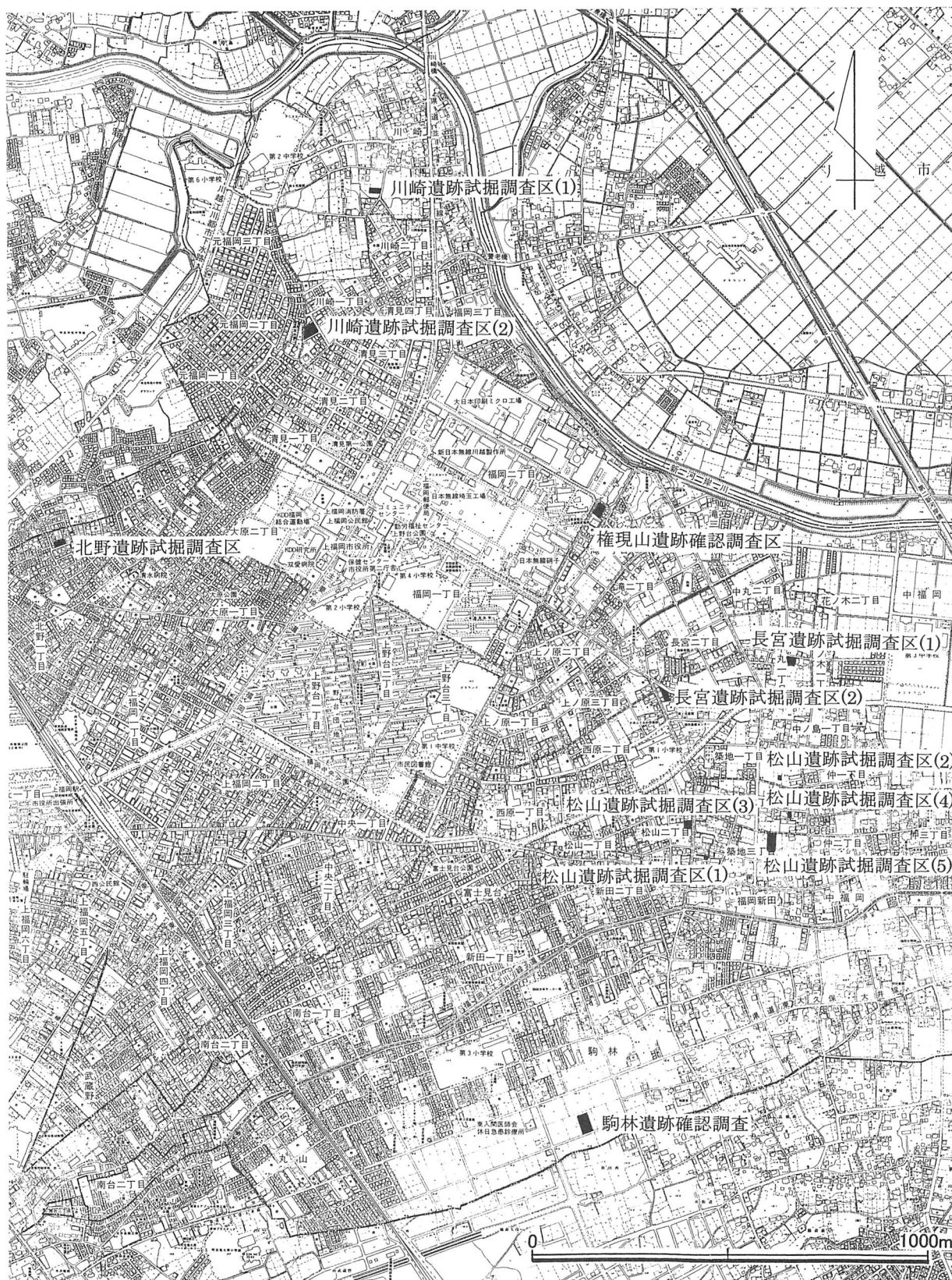
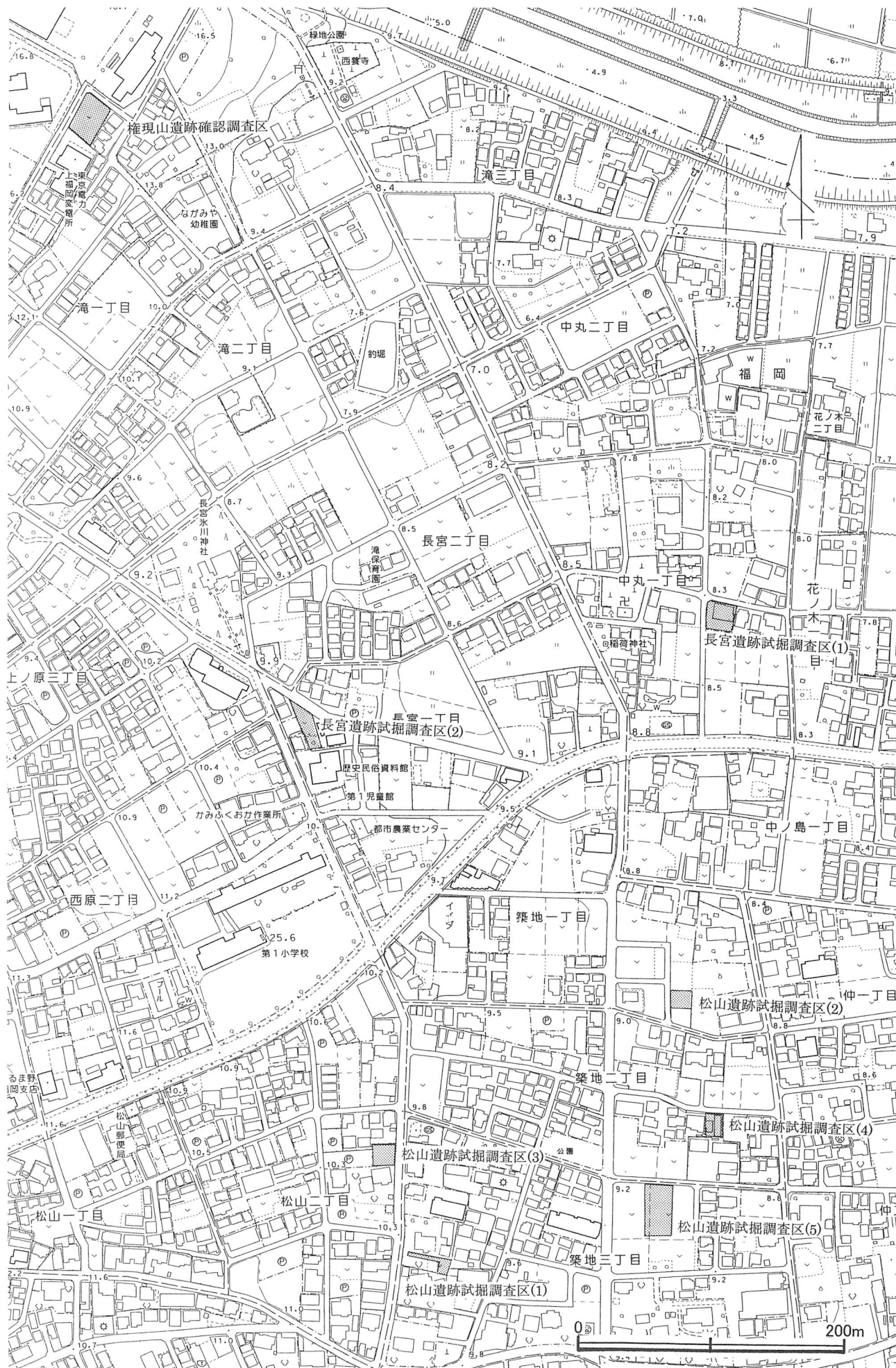




第1図 遺跡位置図 (1/15000)



第7図 権現山遺跡・長宮遺跡・松山遺跡調査区位置区 (1/4000)

Ⅷ 松山遺跡の試掘調査(5)

所在地 築地3-4-12

原因 宅地造成

調査面積 911m²

調査期間 H16.9.6～8

調査担当 柳沢健司

調査補佐 藤牧守絵

検出遺構 溝1条(溝20。
時期不明)

概要 調査区は、標高
9m前後の平坦地
で、掘立柱建物跡
3棟、竪穴住居跡



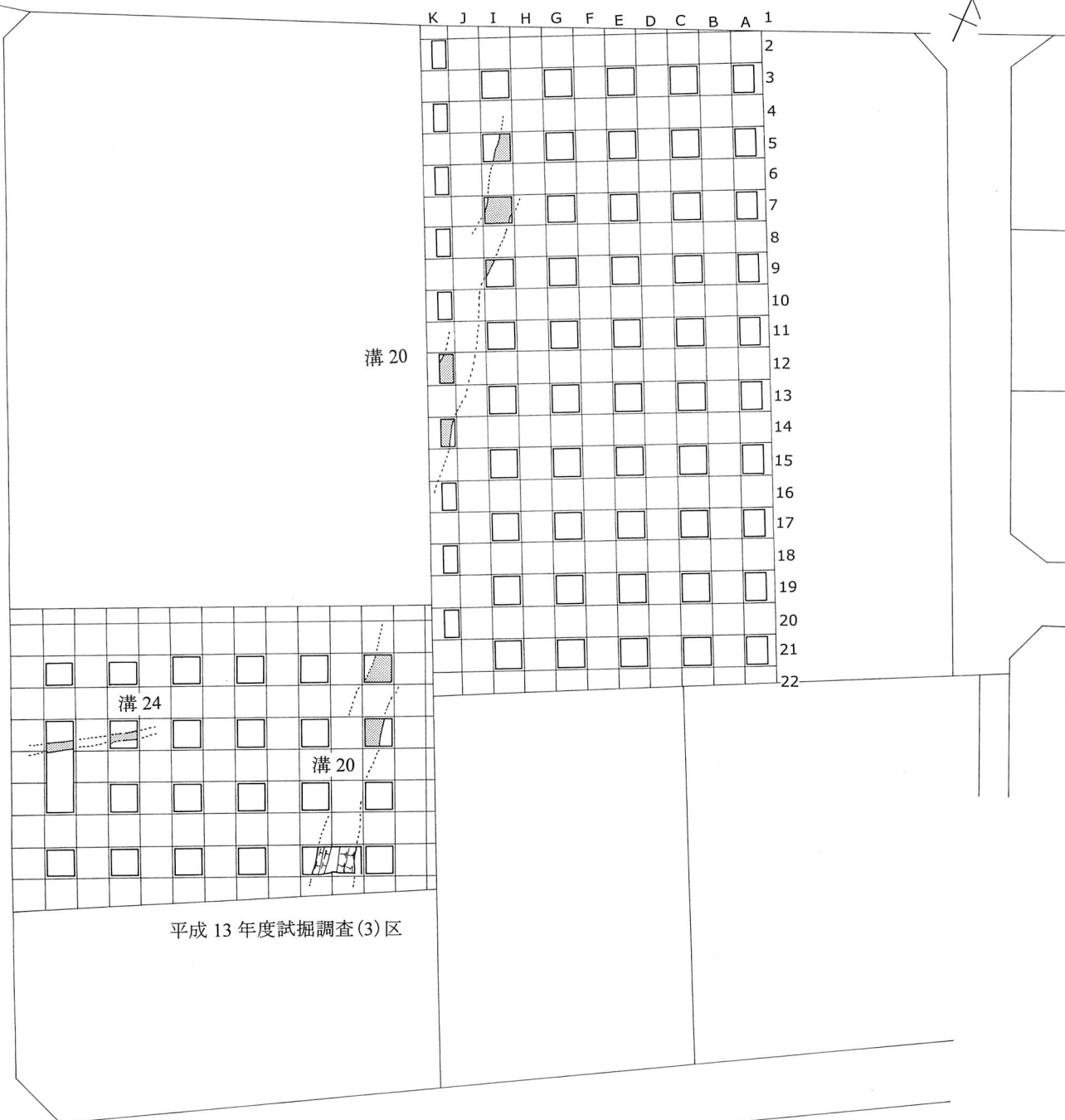
松山遺跡試掘調査(5)調査風景(南西より)

1軒、集石土坑7基を確認した第22次調査区の西30m、平成13年度試掘調査区(3)の北東隣に位置する。9月6日、北東隅土地境界杭を基点に東側土地境界線を基準として2mグリッドを南北方向に1～22区、東西方向にA～K区を設定した。A～3区から1区おきにG区列まで表土除去とローム面の精査を行った。7日、K区列までの表土除去とローム面のレベリングを行った。I～5区からK～14区まで南北方向に走る溝を確認した。平成11年度試掘調査区(5)区からほぼN20°Eで伸びる溝20の延長部分であろう。A、C、E区列の埋め戻しを行った。作業風景の写真撮影とレベリングを行った。基本土層は、地表面からローム面まで40cm前後であった。遺物は検出されなかった。8日、G、I、K区列の埋め戻しを行い、器材を撤収した。



松山遺跡試掘調査(5)作業風景(北より)

(次頁) 第18図 松山遺跡
試掘調査区(5)全測図(1/400)



0 10m